



田間血方神社の神楽「五行の舞」

桜咲く4月、田間地区では血方神社に五穀豊穡を祈願し、太々神楽が奉納されます。「五行の舞」は全12座の一つで、稚児舞(ちごまい)と呼ばれ、赤い衣に千早を着飾った小学生の女の子10人が笛や太鼓の音色に合わせて華やかに舞い巡ります。



県南部、小山市の市街地から南東へ約6km、茨城県との県境にある集落、田間。地区の中央には新国道4号線が通り、東には西仁連川が南流する畑作地帯です。この地域では、地元の農産物直売所と連携した露地野菜の栽培が盛んに行われています。



大沼夕照



ため池に集う

大沼にはカワセミなどの小鳥のほか、渡り鳥のマガモやコガモが多くみられ、近年では白鳥も飛来しています。

新緑の大沼

羽川にある大沼は全国の「ため池百選」に選ばれた農業用水のため池で、散策路や生きもの観察広場なども整備された地域の憩いの場となっています。地元では周辺の美化活動やイベントの開催など、地域の活性化を目指したボランティア活動が行われています。



おやま菜の花・バイオプロジェクト進む

小山市では、ナタネ等の油糧作物を利活用するため、遊休農地での菜の花栽培を促進しています。春には田園の各所に黄色のカーペットが敷き広がり、心躍る風景が見られます。



県南部、小山市の市街地から北東約7kmにある羽川。この集落がある桑地区は古くから養蚕が営まれてきた地域で、国道4号線の羽川交差点を西へ向かうと今でも所々に桑畑を見ることができます。こうした養蚕業から発展した「本場結城紬」が平成22年にユネスコ無形文化遺産に登録され、その技術と文化が世界でも守るべきものと認められました。



間々田の蛇まつり

蛇まつりは間々田に伝わる竜蛇信仰のなごりを伝える行事で、地元では「ジャガマイタ」と呼ばれています。田植えを前にした5月、ほどよい風雨を神仏に願い、竹や藤ツルなどで作った20mもある竜頭蛇体を大勢の子どもたちが担いで町内を練り歩きます。



いい顔いっぱい菜の花マラソン

思川桜と菜の花が満開に咲く中、田園地帯と河川堤を走る気持ちの良いマラソン大会が開催されます。

安房神社祭礼 アワガラ神輿の習俗

屋根にアワガラ（粟茎）を差し込み、四方の鳥居や高欄などに毎年新しいミズヒキを結び加えて独自に装飾されたみこしが勇壮に氏子地域を巡行します。



どんでん焼き

間々田地区では小正月に、1年の健康を願う“どんでん焼き”が行われます。



県南部に位置する小山市 間々田。思川の東部には整然とした水田が広がっています。江戸時代には、日光街道 11 番目の宿場町「間々田宿」としてにぎわい、日光東照宮の造営、修繕の際には、思川の乙女河岸に舟で運送された多くの建築資材がこの地で陸揚げされ、日光へと運ばれました。



仁良川の里から筑波山を望む

山肌まできれいに見える筑波山を背景に整然と広がる田園風景には深い安らぎをおぼえます。



玉ねぎの収穫に勤しむ人達

6月になるとあちこちの玉ねぎ畑で収穫作業が始まり、初夏の風を感じることが出来ます。



県南部、集落の西側を新国道4号線が走る下野市 仁良川。地区東部の平坦地には江川用水と五千石用水が流れ、広大な水田地帯を潤しています。地区内では、現在、土地区画整理が進められ、農家と都市住民との混住化が進行していますが、集落に入ると農家の見事な長屋門が見られ、ふるさと農村の趣が感じられます。



かかしの里

下古山地区では毎年8月に“古山のかかし祭り”が開催され、星宮神社と周辺の稲田に沿って個性豊かなかかしが並びます。多くのかかしに見守られながら行われる稲刈りの様子は、豊作の秋を象徴する平和で幸せな風景です。



県中央部、JR 石橋駅からおよそ 2 km ほど北西に位置する下野市 下古山。地区の西部には、栗谷沢を水源とする姿川とこれに合流する新川が流れ、整備された水田が連なっています。中央には、約 900 年前に創建された星宮神社が鎮座し、地域の人々に厚く信仰されています。

園児の米づくり体験

柴地区では農家の協力のもと、地元の幼稚園児や小学生による米づくりの体験学習が行われています。こうした光景は、これからの自然、農業を守っていくうえでとても大切なもの感じられます。



県南部、JR 小金井駅の東側に位置する下野市 柴。駅周辺部の市街地を抜けると、なだらかな丘陵地に柴用水が流れ、広々とした田畑が広がっています。この地区では、自治医科大学周辺の宅地開発区域と柴工業団地に囲まれ、農家と都市住民の混住化が進んでいますが、農業体験やホテル観賞会、コスモス祭りなど多くの交流活動が行われています。



コスモス街道

下稲葉地区では、5ヘクタールの遊休農地にピンクや白の約500万本ものコスモスが植えられ、多くの人たちの目を楽しませています。



春爛漫



県中央部、JR石橋駅から西に約7kmに位置する壬生町下稲葉。北関東自動車道が地域を横断し、西側には思川が流れています。この地区では営農集団が中心となり、景観作物の植栽やそばオーナー制度の実施など様々な農地の保全活動が行われています。



こすもす畑でお勉強

羽生田地区では、アブラナやコスモスなど四季折々の景観作物を植え付け、多くの遊休農地をよみがえらせています。満開のコスモス畑には授業で訪れていた小学生がお花のお勉強をしていました。

羽生田どんど焼き

育成会や地域住民の協力のもと、新年の恒例行事として「どんど焼き」が行われます。竹で組んだやぐらが勢いよく燃える炎とパンパンとはじける大きな音に、参加者からは感嘆の声が上ります。



県南部、肥沃でなだらかな丘陵地にある壬生町羽生田。地区の西側には思川の支流黒川が流れています。この地域には国指定史跡の茶臼山古墳を始め、県指定史跡富士山古墳、長塚古墳など多くの貴重な遺跡が残されており、古代から多くの人々が暮らしていたことがうかがえます。



かんびょうづくりの里

藤井地区は壬生町のかんびょうづくり発祥の地として知られています。今でも、ふくべ（ユウガオの実）が丸々と実った畑や、帯状にむかれたかんびょうを干す農家を多く目にすることができ、夏の風物詩となっています。



県南部、壬生町の南に位置する藤井。肥沃な土壌のこの地区は古くから栄え、黒川東岸の台地上には古墳時代後期の遺跡や古墳が数多く点在しています。その中でも、国指定史跡の吾妻古墳は県内最大の前方後円墳で、堀を含めた古墳の総延長は約170mにも達します。



夏のひまわり

太陽の光をいっぱい浴び、真夏の青空に向かって元気良く育つひまわりは野木町のシンボルです。野木地区では、毎年恒例となっている「ひまわりフェスティバル」が開催され、約4haの畑に20万本のヒマワリが花を咲かせ、訪れる人たちを楽しませています。



県最南端に位置する野木町野木。西側には広大な渡良瀬遊水地があり、国道4号線、JR宇都宮線が地区内を縦断しています。江戸時代には古河藩に属していたこの地域は、「古河三宿」の一つ、日光街道の野木宿としてにぎわいました。地区の南に鎮座する野木神社は約1600年前の建立といわれ、二輪草の群生地としても知られています。



野渡のささら獅子舞

野渡地区に古くから伝承されている獅子舞は、悪疫退散と五穀豊穡を祈願して野渡の鎮守・熊野神社の祭礼に奉納されます。獅子の踊り手や棒・太刀使いはすべて小学生が演じます。獅子舞の行列では、昔さながらの木ぐるまをつけた「山車」が、色鮮やかに飾り立てた笠鉦を揺るがせながら先導します。



県の最南端に位置する野木町 野渡。集落の西側には渡良瀬遊水地・谷中湖があり、渡良瀬川が南へと流れています。遊水地にほど近く閑静な佇まいの中にある満福寺は、鎌倉円覚寺の行基の作といわれる釈迦如来像を安置した曹洞宗の禅寺で、春には、山門の見事なソメイヨシノの1本桜が満開に花を咲かせます。



蕎麦と曼珠沙華のコントラスト

四方を山に囲まれた小野寺地区は、昔からそばの栽培が盛んな地域です。そば花の白いじゅうたんと彼岸花の赤いラインのコントラストが造り出す風景はとても見事です。

収穫も済んで

収穫後の田んぼでは害虫駆除として地表が焼かれ次作に備えられます。



県南部、足尾山地の山麓にある岩舟町 小野寺。渡良瀬川へと注ぐ三杉川の上流にあるこの集落には、由緒ある多くの社寺が所在し、歴史情緒にあふれています。周囲を山々に囲まれた盆地では、米、そばの栽培が昔から行われ、その食味、風味の良さが人気を保たれてきました。